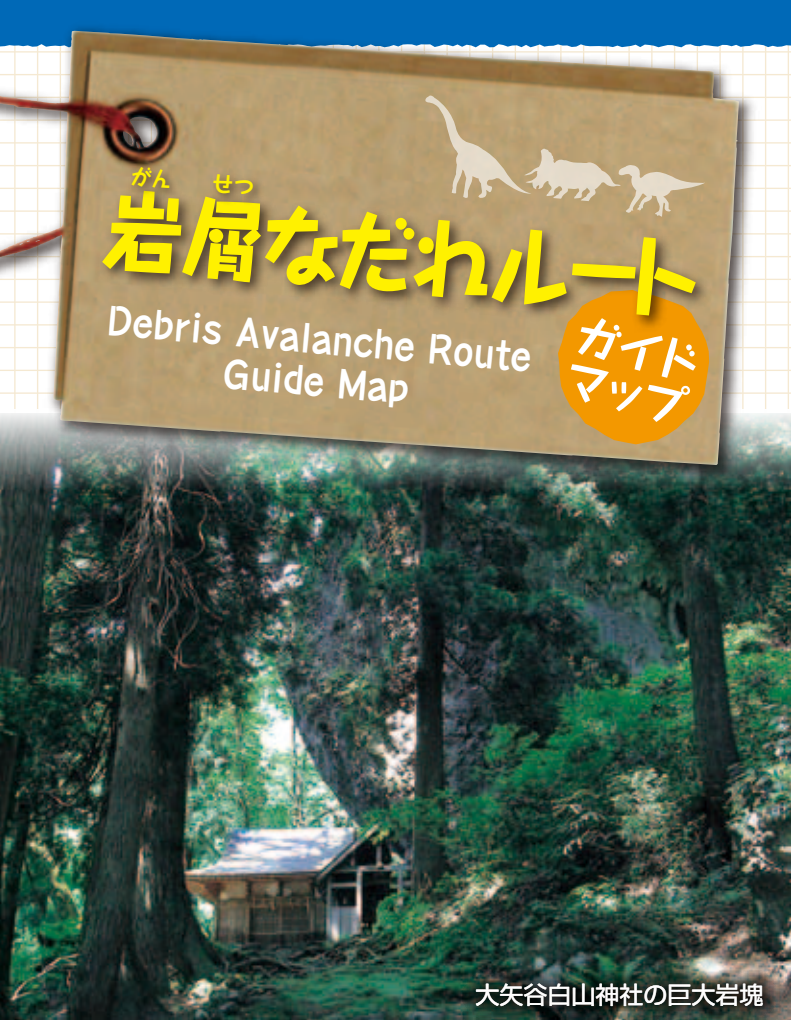




大矢谷白山神社の巨大岩塊

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会／勝山市

4 六呂師温泉ピクニックガーデン

地下深くから、大地の恵みである白濁した気泡が湧き出す天然のツルツル温泉。泉質はナトリウム（炭酸水素塩／塩化物泉）で、間接痛、筋肉痛、神経痛などに効くと言われています。入浴のほかバーベキューなども楽しめます。（☎0779 - 88 - 1110）

5 大矢谷白山神社の巨大岩塊（岩屑なだれ岩塊）

大矢谷白山神社には、数万年前、経ヶ岳火山の岩屑なだれによって運ばれてきた高さ約23mの巨大な岩塊があります。この巨大な岩塊は、大小の角礫が火山灰によって強く結合されている岩石（凝灰角礫岩）の塊で、その岩質は、経ヶ岳火山（保月山頂上付近）の岩石の特徴に一致します。

この岩塊の下からは、縄文時代の石器や平安時代の須恵器などが発見されており、生活や祭祀がおこなわれていたと考えられています。



凝灰角礫岩

6 弁財天川河床の岩屑なだれ岩塊群（大矢谷、岩ヶ野付近）

平泉寺町大矢谷から岩ヶ野にかけての弁財天川の河床には、岩屑なだれ岩塊が点在しています。一旦、谷を埋めた岩屑なだれ堆積物を河川が侵食し大きな岩塊が残ったものと考えられます。大矢谷から岩ヶ野や壁倉にかけての緩斜面は、岩屑なだれ堆積物によって形成されています。

岩屑なだれルート

現在の経ヶ岳、保月山の頂上付近には馬蹄形の二つの凹地形がそれぞれ見られます。

その地形は、火山の山体崩壊によりできたものです。その山体崩壊は、岩屑なだれを引き起こし、多くの痕跡を点在させています。

ルート上には、六呂師高原からの保月山崩壊源の眺望や池ヶ原湿原での貴重な湿地植物、大矢谷白山神社の巨大岩塊や弁財天川河床に点在する岩塊群、九頭竜川沿いの岩屑なだれ堆積物の侵食壁など岩屑なだれの地質・地形遺産が点在しています。岩屑なだれルートは、経ヶ岳火山の山体崩壊によって形成された勝山市平泉寺町東部一帯の地質・地形の成り立ち、それに関連する自然環境や災害などについて学ぶことができるルートコースです。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

「ジオパーク（Geopark）」とは、地形・地質遺産を野外や博物館などで実際に見て、本やインターネットでは得られない手触りや体験、その迫力から「地球」や「大地」の秘密や歴史を探り、自然や人間の生活にどのように関わっているか考えることができる場所です。

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は、勝山市全域をエリアとし、「恐竜はどこにいたのか？大地が動き、大陸から勝山へ」をテーマに掲げ、恐竜が大陸で生きていた頃から勝山で発見されるまでの間の地球活動の遺産やそれに関わる人々の暮らしを訪れる人々が目で見、肌で感じることができるジオパークを目指しています。

ジオパーク、岩屑なだれルートに関する連絡先

〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1
勝山市役所内 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局
TEL：0779-88-8111 FAX：0779-88-1119
E-mail：fk-geo@city.katsuyama.lg.jp
HP：http://www.city.katsuyama.fukui.jp/geopark/

7 流れ山地形

平泉寺町岩ヶ野（弁財天川）から平泉寺町笹尾、赤尾、神野へ方向には、経ヶ岳火山崩壊に伴う岩屑なだれによって膨大な量の土砂や流れ下りできた「流れ山」と呼ばれる小さな丘をいくつか見ることができます。岩屑なだれの末端に典型的に見られる地形で、山体の崩壊源からの距離が遠くへ離れるほど小山は小さくなります。



流れ山の分布図（○流れ山）

8 檜ヶ壁

県道239号線（上唯野西屋勝山線）の壁倉水力発電所から大野市花房の方向に続く高さ約50m、延長約1.2kmの断崖は、地元の人からは「檜ヶ壁」と呼ばれています。経ヶ岳火山の山体

岩屑なだれ

岩屑なだれとは、火山の不安定な部分が崩壊して重力により表層なだれのように高速で崩れ落ちる現象をいいます。これとよく似たものに火山の爆発的な噴火で噴出した火山砕屑物が空気と混合し重力により山腹を流れ下る火砕流があります。

双方とも土石流や火山泥流などの水と混じり合って流下するものとは異なります。

●経ヶ岳火山

経ヶ岳火山は、今から約100万年前に活動があった火山で、現在の経ヶ岳、保月山、法恩寺山などの山々と一連の火山活動により成層火山を形成していたと考えられています。これらの火山を総称して「経ヶ岳火山」と呼んでいます。その成層火山は、その後の山体崩壊や侵食作用により、山体の大半が失われたと考えられています。

※経ヶ岳：標高1,625.2m、保月山：標高1,278.8m



加越山地の山々（▼経ヶ岳、▼保月山）

崩壊に伴う岩屑なだれによって流れ下った岩屑なだれ堆積物で形成されている壁です。一旦は、その岩屑なだれ堆積物が九頭竜川の河床を埋め立て、その後、九頭竜川に大きく侵食されたものと考えられます。



檜ヶ壁の位置図及び河川による侵食方向

9 雄岩／雌岩

旧女神橋のたもとにある大きな岩の塊（雄岩）は、1726（享保11）年に雪解け水により、経ヶ岳中腹付近の山体が崩壊したものが、土石流となって流れてきたものです。橋の下流にも雌岩という同じような岩があります。

その土石流は、死者82名、流出・埋没家屋48戸、田畑の消失など甚大な被害を出したことが記録に残されています。

現在も経ヶ岳の山体は侵食を続けており、そのため女神川の

1 保月山崩壊源（現在の保月山付近）

現在の経ヶ岳、保月山の山頂付近には、大規模に山体が崩れた二つの大きな馬の蹄の形に似た凹み（馬蹄形凹地）があります。

六呂師高原の方向からは、保月山崩壊源が眺望できます。この大きくスプーン状に見える崩壊源から流れた岩塊や土砂（岩屑なだれ堆積物）は六呂師高原から平泉寺町大矢谷、壁倉の方向に厚く堆積しています。



貴重な湿地植物の水ズドリ

2 池ヶ原湿原

池ヶ原湿原は、岩屑なだれ堆積物が地すべりを起こした際にできた凹地に湧き水や雨水が貯まってつくられた湿原と考えられています。

池ヶ原湿原は、福井県を代表する湿原で、その面積は約1.5haあり、貴重な湿地性植物などが観察できます。

3 奥越高原牧場

この一帯は、勝山市と大野市に広がる高原地帯で奥越高原県立自然公園のエリアにあります。戦後、開拓地として開発され、1971（昭和46）年に奥越高原牧場が開設されました。この牧場では、見学や体験などが行うことができます。（☎0779 - 88 - 1973）

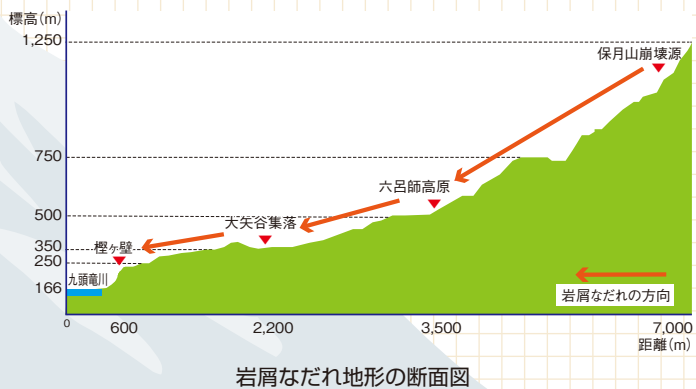


牛の放牧風景

上流にはいくつものえん堤が設置され、未然に災害を防ぐ対策が講じられています。

岩屑なだれ地形

このように現在の保月山頂付近を崩壊源とする岩屑なだれは、六呂師高原から平泉寺町大矢谷、壁倉（檜ヶ壁）にかけて、いくつかの大きな丘（流れ山）や平坦な台地（六呂師高原）を形成しました。



岩屑なだれ地形の断面図

このような地形・地質景観は、この地域で大規模な自然災害（岩屑なだれ）があったことを未来に向けて残していくための貴重な財産であると言えます。

MAP 岩屑なだれルート

～未来に語り伝えたい！
貴重な地形・地質遺産～

ルートコースのおよその距離及び所要時間

自動車

- ① 六呂師高原から望む保月山崩壊源
↓ 約1.7km (00:05)
- ② 池ヶ原湿原
- ③ 奥越高原牧場（管理事務所）
↓ 約1.2km (00:05)
- ④ 六呂師温泉ピクニックガーデン
↓ 約4.5km (00:05)

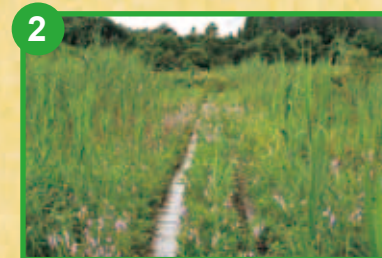
Driving

- ⑤ 大矢谷白山神社の巨大岩塊
↓ 約1.5km (00:05)
- ⑥ 弁財天川河床の岩屑なだれ岩塊
↓ 約2.5km (00:05)
- ⑦ 流れ山（赤尾）
↓ 約3.0km (00:10)
- ⑧ 樫ヶ壁（岩屑なだれ末端部の侵食崖）

※所要時間は片道のもので、自動車による標準的な移動時間です。



六呂師高原から望む保月山崩壊源



池ヶ原湿原



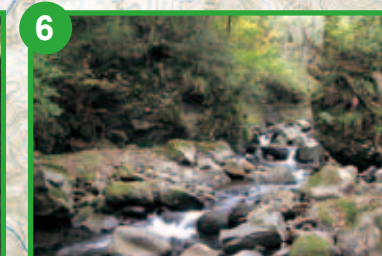
奥越高原牧場



六呂師温泉ピクニックガーデン



大矢谷白山神社の巨大岩塊



弁財天川河床の岩屑なだれ岩塊

経ヶ岳



流れ山（赤尾）



樫ヶ壁（岩屑なだれ末端部の侵食崖）



雄岩（猪野口）

